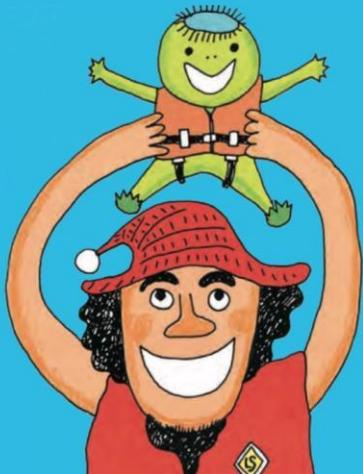


おぼえよう！

よい子の水辺の
おやくそく

～「ライフジャケット」は命のおまもり～



たの
みずべ
あそ
あいことば
楽しく水辺で遊ぶための合言葉、言えるかな？

「かっぱの“お・さ・ら”！」

うみ　かわ　みずうみ　いけ　みずべ　き
海や川、湖や池などの水辺では気をつけないとあぶないところがあるよ。
「かっぱの“お・さ・ら”！」の合言葉を覚えよう！！



おとなといっしょに！！

こどもだけで水辺に近づかないこと！水辺では、足をすべらせてころんだり、急に深くなっていたりして、おぼれてしまうことがあります。

サンダルはぬげないものを！！

水辺ではサンダルやぼうしななど、落としてしまったものをひろおうとしたり、流されたものを追いかけたりして事故につながることがあります。まずは、ぬげないもの（かかとがとめられる「サンダル」や「くつ」）をはくこと！何かを落としたり、流されたりしたら、近くにいる大人に助けてもらおう！

「ライフジャケット」をつけよう！！

水辺では「ライフジャケット」をつけることを忘れずに！事故が起こってしまっても「ライフジャケット」をつけていた人のほとんどが助かっています。準備できる時は必ず、「ライフジャケット」をつけよう！



「ライフジャケット」をつけると安心だね

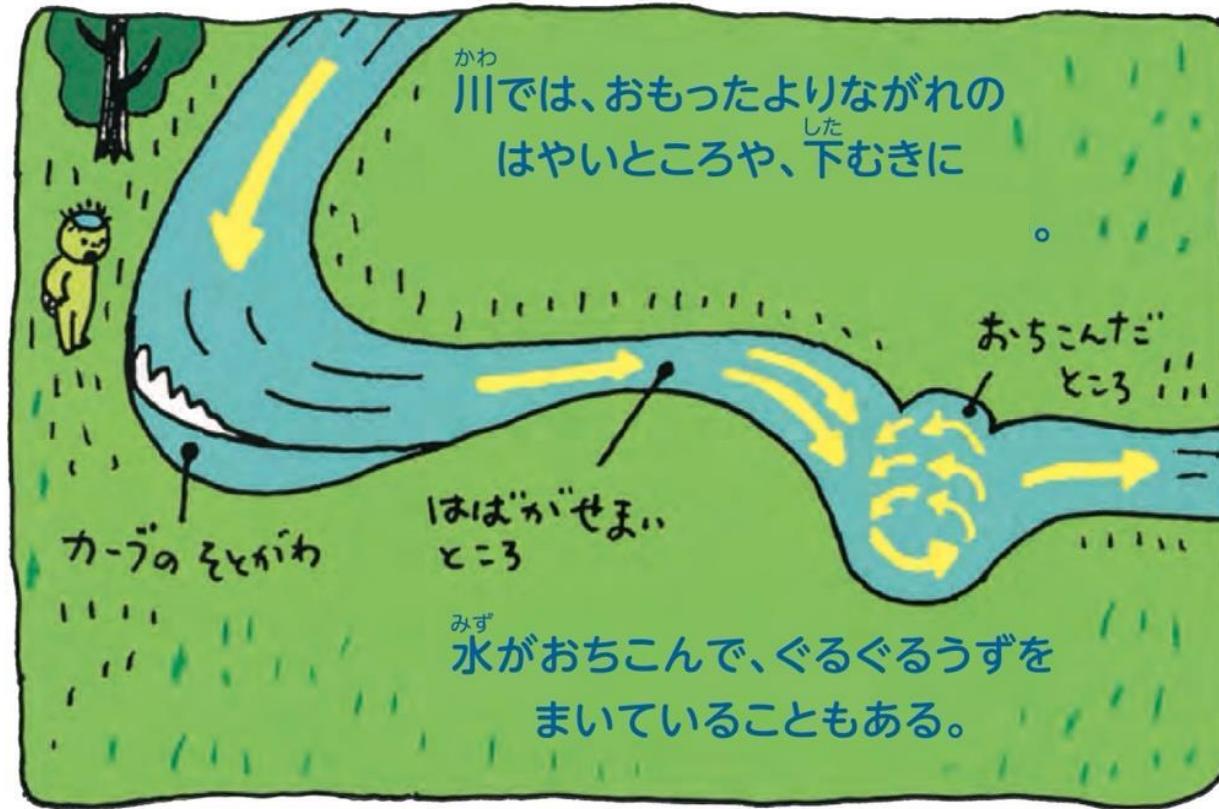


うみ きし おき
海では、岸から沖にむかってながれているところがある。
りがんりゅう
「離岸流」っていうんだよ。



こんなところがあぶない！

かいすいよく あそ はまべ ちか はまべ およ
海水浴をしているときに、遊んでいた浜辺から、近くの浜辺に泳い
でいく途中でおぼれた事故があったよ。みんな「ライフジャケット」
をつけていなかったんだって！特に小さな子どもは浮具に乗った
まま風に流されてしまったり、風に流されたものを追いかけてお
ぼれてしまったり、風で流されることもあるから注意が必要だね。



なが 流れてしまったビーチボールやサンダルを取りに行こう
としておぼれた事故や、川で釣りをしているときにつり
糸が切れて、流されたルアーを取りに行っておぼれた
事故があったよ。流されたものが大切なものでも、絶対
に追いかけないで自分の命を守ろうね!



いけ 池・ため池

いけ いけ みず くさ
池やため池は、水のちかくが草でかくれていたり、
すいめん みずくさ
水面が水草でいっぱいだったりして、
きづかずにおちてしまうことがある。



釣りをしているときに水に落ちて、斜面のぬめりで、はいあが
ることができずにおぼれてしまった事故があったよ。その池
には柵がなかったみたい。落ちてしまうと、ぬるぬるして
はいあがれないことがあるから、池やため池には近づかない
ようにしてね。



水中が見えないから深みにはまっておぼれてしまつた事故があつたよ。危ない場所は見ただけではわからないんだね。水面が太陽の光でキラキラしていたり、水がにごっていると水中が見えないから、特に注意が必要だね。

まえ・よこ・おまた
のおやくそく!

「ライフジャケット」のつけ方

うみ　かわ　いけ　海・川・池それぞれの気を付けるポイントはわかったかな。
かな　じこ　悲しい事故につながらないように遊びに行くときは
あそ　い　「**ライフジャケット**」を準備しよう！

まえ



まえのチャックをしめる！

よこ



よこのベルトを
しめる！

ゆるみやすいのでしっかりと、
ちょっときついくらいに。

おまた



おまたのベルトを
しめる！



さいごはおとなに
かくにんしてもらおう！

おお
大きすぎる
ものは…



スボッとぬけてしまうことも。
おまたのひもをわすれずに！

Q. 人間の身体はどれくらい浮くの？ (た—っぷり息を吸った時)



A. 人間の身体は息をた—っぷり吸っても* す
2%くらいしか浮きません!

*体の中に空気がいっぱいある時

せいかい
**正解は
③!!**

なが みず なみ いき
流れている水や波のあるところだと、息ができずに、おぼれてしまうことがあります。
ひと いき
そして、ほとんどの人は息をはくとしんでしまいます。
しぜん みずべ およ ひと で すいえいせんしゅ
自然の水辺では、プールでバリバリ泳げる人でも、オリンピックに出た水泳選手でも
おぼれてしまうことがあるんです…。

ちょっとしか
うかないんだね。



みずべ ちか とき
だから、水辺に近づく時は…

たいせつ
「かっぱの“お・さ・ら”！」を大切に！
「ライフジャケット」を準備しておこう!!



「ライフジャケット」をつけると
かお みず うえ で
顔が水より上に出ます！

この資料は、絵本「かっぱのふうちやん ライフジャケットでスイスイ」（森重裕二・文、市居みか・絵、子どもの未来社刊）をもとに作成しました。